

社会科学の発展を考える円卓会議委員 各位

第10回社会科学の発展を考える円卓会議テーマのご案内（趣旨文）

一橋大学長 中野 聡

委員各位には平素より本学に対して多大のご厚誼を賜り深く感謝申し上げます。

「産官学のすべての英知を結集して日本の社会科学を発展させるための方策を構想していく場」として本学が2018年に設置した「社会科学の発展を考える円卓会議」は、これまで委員各位のご協力の下、3期・9回にわたり開催されてきました。第1期（第1回～第3回）においては、日本の社会科学の国際競争力強化に向けた課題として人材育成、研究、財政基盤とガバナンスをめぐる問題をそれぞれ検討し、第2期（第4回～第6回）においては、これからの時代に社会科学に求められる新しい課題としてデータサイエンスとEBPM、文理共創、社会との共創をめぐる課題を検討してきました。そして、第3期においては、これまで検討されてこなかった具体的な課題として「医療・健康と社会科学」「ジェンダーと社会科学」「社会科学における博士人材の育成」をテーマに設定し、委員各位から貴重なご意見、ご提言をいただいたところです。

今回開催する第4期第1回（通期第10回）の会議においては、「社会実装と社会科学」をテーマに設定いたしました。

産学連携の推進は、日本の国際競争力強化、地域活性化、イノベーション創出への貢献に向けた大学改革の最重要課題のひとつとして、理工系を中心に戦略的に推進され、企業経験者を含むコーディネーターの配置やマネジメント体制の整備、成果を定量的に評価する仕組みづくり、地域拠点の形成、大学発スタートアップ支援、オープンイノベーション拠点の整備など社会実装を見据えた政策が展開されてきました。社会科学系総合大学としての一橋大学もまた、高度実証経済研究の蓄積、イノベーション研究やソーシャル・データサイエンスをはじめとする社会科学の知見や、社会から高く評価されてきた高度専門人材育成の実績、最大の資産でもある卒業生ネットワークなどの特色や強みを生かして、本学発の産学連携はもとより日本における産学連携の推進をいかに活性化させ、日本発スタートアップの成功確率の向上などにいかに貢献するかを、最重要課題の一つと捉えてさまざまな取組を展開しています。

以上の問題意識を念頭において、来る円卓会議では、この4月より開志専門職大学学長に就任されました各務茂夫委員に講演をお願いしております。各務先生はこれまで東京大学

産学協創推進本部において「東京大学アントレプレナー道場」を開講するなどスタートアップ支援や起業家教育に深く携わってこられました。また4月に着任された開志専門職大学は、豊富な実務家教員を擁し、企業内実習を必修化するなど実践的な職業教育に重点を置いた新たなコンセプトの大学です。東京大学で携わられた先進的な産官学連携の取組とともに、これから開志専門職大学で思い描く各務学長の構想についてお話いただきたいと思います。続いて、本学広報・社会連携担当副学長の西野和美教授より、本学の産官学連携事業の現在と将来像について紹介させていただきます。

委員各位には、忌憚のない活発な議論を展開していただければ幸いです。